

ダンス学習における CPM シートを利用した 動きの創造に関する研究 ～初心者レベルの大学生を対象に～

平山素子¹⁾, 西山友貴²⁾

A study on movement creation with CPM sheet in dance education: focusing on college students of beginning level

Motoko HIRAYAMA¹, Yuki NISHIYAMA²

Abstract

Generally speaking, it is not easy for beginners to create a new dance movement by themselves. This prompted the authors to generate a sheet called Components of Physical Movement Sheet (CPM sheet) as a new approach to develop an ability to recognize structural body movement individually. The purpose of this study is to attempt a creation of movement using CPM sheet on 106 college students of beginning level, and clarify elements which affect on movement creativity according to their responses to the sheet. The data to be discussed below is compiled statistically. The result of our experiment clearly shows that the students recognize elements including 'complexity and diversity', 'continuity', 'individuality' and 'meaning of verbalization' are highly significant and should be concerned deeply.

I 緒言

ダンス熟練者がダンスの動きを創造する場合、その経験知によりシンプルな動きの組み合わせからフレーズを創り出し、それを連続して行うことで様々なバリエーションに変化させたり、よりレベルアップさせたりと、複数の動きのパターンを提案することが容易であるといえ

る。しかし、ダンス経験が浅い初心者にとってはそうではない。

A・ロックハート、E・ピースらによると、舞踊教育の最終的な目標は、「学生達がダンスというものを通して自分の観念 (idea), 考え (thought), 感じ (feeling) を伝達できるようになることである」²⁾と述べている。この理念に基づき、体育科で舞踊教育が行われているこ

1) 筑波大学

2) 筑波大学大学院体育研究科

となる。現在、体育科で導入されているダンス（舞踊養育）では「ダンスの全体像「踊る－創る－見せ合う」の体験を基盤にした「新しい踊りを創って踊る学習（創造学習）」と「既成の踊りを身につけて踊る学習（再現学習）」の二つになる」⁸⁾と片岡が分類している。この創造学習の一般的な過程は、川口による創作ダンスの手順により、下記のように説明されている。

- 「(1) 題材、テーマの決定
- (2) 作品全体の流れを決定
- (3) 伴奏音楽の見直し 動きの発見
- (4) 動きの創作
- (5) 動き、心のイメージの確認
- (6) 踊り込み、まとめ」⁹⁾

ここでは題材やテーマが第一の手順としてあげられており、動きの創造行程（川口の分類では動きの創作）はその後に組み込まれていることがわかる。このような創造学習の内容を順序立てることにより、円滑な学習が可能になると考えられているのである。また、一般的に舞踊教育では、創造学習の課題において、コミュニケーション力の向上を目的としたグループワークを基盤とし、動きの基となる題材やテーマの決定が入り口とされる。しかし、気がついてみると、テーマの決定の討論に重点が置かれ、個々の動きを追究する時間が十分ではない場合が多くみられる。つまり、実演していくための準備をし、動きを探りだし何度も練り直す時間が確保できていないと推測される。

これに対し、村田は「作品という結果の価値よりも、表現行為それ自体の意味やプロセスの価値を重視しようとする」¹¹⁾ことを狙い即興表現を取り上げている。これは、発見を探求するプロセスが重視され、踊る・創るが一体となるため、討論の時間などを省くことができ、反射的に動きを表出させることができるメリットがある。このように指導者たちは、頭を悩ませながらも、舞踊教育における創造学習にまつわる現状を回避するために様々な工夫を凝らしている。

筆者はこの状況に着目し、テーマや、題材を決めず逆説的に動きの創造からスタートして創造学習を行った場合、どのような状況がおこるかを見てみたいと考えた。

そこで、身体の動きを構造的に認知する能力を個々に養う練習課題として components of physical movement シート（以下、CPM シートと表記）を考案した。本研究は、ダンス経験の比較的浅い初心者レベルの一般大学生を対象に CPM シートを使用して動きを創造する実験を行い、その回答内容から大学生による動きの創造プロセスの現状を整理し、さらに CPM シートの効果や、今後の創造学習における活用の可能性を探ることを目的とする。

II CPM シートの特徴

CPM シートは表の形式で作成され、動きを自ら表記する特徴を持つ。題材やテーマ、踊り手の感情や意志、それに関連する音楽等の存在には触れることなく、身体の動きを構造的に認知する能力を個々に養う練習課題として考案した。言い換えると、ダンスの動きを、細分化した要素として捉える試みをするものである。また、あらかじめ基本的な3つの要素 direction, action, speed（方向、動き、速さ）を提示し、その他の動きの創造に必要な要素を自らの記述によって提案することができるものである（Fig. 1）。

使用方法は以下のとおりである。

- 第一、動きを言語として表記（表に書き込み）
- 第二、自らの身体で実演
- 第三、修正、加筆など
- 第四、再び実演

III 研究方法

1. 調査対象と時期

調査対象は、筑波大学一般学生（共通体育ダンス受講者）3クラス、106名であった。ダン

ス経験ありは30名、28%、ダンス経験なしは76名、72%であった (Table 1)。

ダンス経験ありの中で、ジャンルの種類は「クラシックバレエ」、「ストリートダンス」が共に26%であった。「その他」に関しては「チアガール」や「新体操」、「よさこい踊り」等様々な種類が挙げられ、「新しい動きを創造する」経験を持つ者は少ないといえる (Table 2)。

調査時期は、平成19年10月11日(1限, 3限)、12日(3限)で、場所は、筑波大学総合体育館ダンス場において実施した。

Table 1 ダンス経験年数
総記述数 30

	経験年数	人数	割合
1	1年未満	6	20%
2	1～3年	10	33%
3	4～6年	3	10%
4	7～9年	5	17%
5	10～12年	3	10%
6	13～15年	3	10%

Table 2 ダンスの経験ジャンル
総記述数 35

	ジャンル名	人数	割合
1	クラシックバレエ	9	26%
2	ストリートダンス	9	26%
3	社交ダンス	6	17%
4	モダンバレエ	3	9%
5	ジャズダンス	2	6%
6	その他	6	17%

2. 調査内容

1) 実験調査

CPMシートを使った実験の手順は以下である (合計55分) (Fig. 1)。

- ①実験内容の説明 (10分)。
- ②CPMシートの表の左 (太枠内) のA～Cの空欄 (1～6まで) を下のキーワードを参考に書き埋める。1～6の動きを個々で覚え、シートを見ない状態で連続して実行可能になるまで練習する (10分)。
- ③1～6までの動きを連続して実演。シートを見ない状態で各自2回行う (5分)。
- ④動きを実演後、個々でさらに加えたい要素、必要だと感じた要素をD～G欄の()内に記入し、空欄も書き埋める。この要素を含めた動きを再度練習する (10分)。
- ⑤1～6の動きを再度連続して実演 (5分)。
- ⑥実験後、質問紙調査 (15分)。

2) 質問紙調査

CPMシート実験後、以下の項目を質問紙により実施。段階別回答のほかに、自由記述で回答を得た。

- ①シートを使って自分で動きを創ってみてどうでしたか。シートがない状態で創る場合と何か違いがありましたか。
- ②最初にシートに書いてもらった()の要素に関して、なぜそのような要素を挙げたのですか。

	A direction	B action	C speed	D ()	E ()	F ()	G ()
1	右		速い				
2	左	ひねる					
3	後ろ		遅い				
4		滑る					
5	下		静止				
6		伏せる					

Fig. 1 「components of physical movement」シート

- ③シートを使って動きを創っていく中で、ダンスにおける「動き」に関して気づいたことはありましたか。具体的に書いてください。
- ④表に書き込んだ通りに動きを実行することができたと思いますか。(5段階評価) また、その理由も書いて下さい。
- ⑤動きを創る上でこのシートを活用する事にはどのような効果があると思われましたか。また、どのような場で活用することができると思いますか。
- ⑥実験で創った動きは「ダンスだ」と思いますか。(5段階評価) また、その理由も書いて下さい。

3. 調査資料の処理

CPM シート、質問紙調査用紙は Office Excel ワークシートを使用し、集計した。

以下の項目ごとに統計的に処理し、分析の基礎資料とした。

- ①調査対象者の背景
- ②調査対象者が記入した要素の内容
- ③ CPM シートの活用
- ④ CPM シートの活用による動きの気づき
- ⑤ CPM シートの活用によるダンスに対する認識

IV 結果と考察

1. CPM シートに記入した要素の分析

CPM シートの D～G 欄を無記入で提出したものは一人もいなかった。記入内容は、具体的な言葉で埋め尽くす者もいれば、絵のようなものや音楽記号のようなものなど、様々なスタイルが現れる結果となった。これを独自の方法で整理し、「部位」、「イメージ・質感」、「表情・視線」、「動きの大きさ」、「音楽・リズム」、「その他」に関しての計5つの要素を抽出し、整理し、それらを中心にして考察を行った。

1) 部位

「部位」に関しての回答が36%と最も多く得られた (Table 3)。

頭・腕・足・首・膝・腰など様々な部位に関して、動きの内容を分けて書き出している調査対象者が非常に多くみられた。この結果から、「どの部分を動かすのか」が動きの構成要素として重要であると認識していることが伺える。

2) イメージ・質感

「イメージ・質感」に関しての回答は28%を占めた (Table 3)。

具体的な回答は以下であった。

- ・自動販売機から出てくるジュース
- ・物を買ってもらえない
- ・雑巾絞り
- ・演歌のように

また、「にゆるっと」、「なめらかに」、「ねちっこく」、「ゆるく」等、個々で全く違う表現言語が抽出された。イメージ・質感といってもその内容は個のとらえ方で多様性を帯びていた。A・ロックハート、E・ピースらが、「ひとつひとつ違う動きの質を経験していくにつれて、学生達は動作と情緒が密接に関連しているのに注目する」⁹⁾と述べているように、調査対象者がダンスの動きを創造する上で、イメージや質感が重要な手がかりであると認識していることが伺えた。

3) 表情・視線

「表情・視線」に関しての回答は12%であった (Table 3)。

具体的な回答は以下であった。

- ・笑う
- ・悲しい顔
- ・真剣な顔
- ・困った
- ・視線→強く

邦は著書『舞踊の美学』において「人間の身体の中で顔の部分がいちばん効果的な表現機能をもっている」¹⁰⁾と述べ、表情は舞踊表現の技巧として確かに有効なものであると考えられる。本調査において、「表情・視線」に関しての回答が多く挙げられたことから、今回のような初心者レベルの調査対象者にとって、表情や

視線は自らの表現を助ける要素として非常に重要であったと考えられる。

4) 動きの大きさ

「動きの大きさ」についての回答は9%であった (Table 3)。

回答数が少ない結果となったが、ダンス経験年数と照らし合わせてみると、この回答をしたのはダンス経験者が比較的多かった。A・ロックハート、E・ピースらは、「動きの広がり具合とか大きさに関した言葉には範囲 (range) とか、大きさ (dimension) とか広さ (amplitude) 等があり、その範囲は、小から大へ、大から小へ、小と大の間、コントラストに重点をおいたりする」³⁾と述べているように、ダンスにおける動きは一定の大きさだけで表現されるものではなく、動きに様々な強弱が現れる様が魅力の一つになるといえる。このことに着目し、実演に盛り込むことができるのは、多少のダンス経験が必要と考えられる。

5) 音楽・リズム

「音楽・リズム」についての回答が4%となった (Table 3)。

今回のようなダンス経験の浅い学生達にとって、ダンスの動きを創造する際、音楽による助けは大いに重要であると考えられる。これは、「時間やテンポや強度の漸次移行 (gradation) を通して、音楽は運動の範囲や特性をコントロールし得る」⁶⁾と、音楽は動きに多大なる影響を与えると考えられていることから、ダンスの指導現場において音楽は非常に多様に用いられ、その重要性は明らかである。しかし、得られた結果が4%と低かったことは、今回の実験では音楽・リズムに関する要素の存在に触れることなく動きの創造を行ったために、調査対象者の認識が低く、少数意見にとどまる結果となったと考えられる。

6) その他

「その他」についての回答が11%であった (Table 3)。

具体的な回答は以下であった。

- ・回数 (1回, 2回, 3回)
- ・時間 (長く, 短く)
- ・注意点
- ・次の動作へのつなぎ

これは、調査対象者が動きを創造する際、様々な要素を個別に設定、認識し、必要としていることが伺える。

Table 3 調査対象者が記入した要素

総記述数 274

	要素	回答数	割合
1	部位に関して	99	36%
2	イメージ・質感に関して	76	28%
3	表情・視線に関して	32	12%
4	動きの大きさに関して	25	9%
5	音楽・リズムに関して	12	4%
6	その他	30	11%

以上のように、様々な要素を調査対象者がCPMシートに書き入れる結果となったが、身体の中の部分を、どのようなイメージで動かすのかを具体的に噛み砕いて考え、実際に体験させることは、調査対象者がダンスにおける心と身体との関係を再認識する糸目になり得ることが示唆される結果となった。

2. CPMシートの活用に関する回答の分析

動きの創造時に与える効果について着目し、「動きのアイデア」、「動きの整理」、「動きの発見」、「動きの意識」、「イメージや創造力の向上」についての計5つを質問紙調査項目の内容から抽出し、それらを中心にして結果の考察を行った。

1) 動きのアイデア

最も多く挙げられたのが、「動きのアイデア」に関する項目であり、56の回答が得られた (Fig. 2)。

具体的な回答は以下であった。

- ・シートがない場合は全く何をしたら良いのか分からなかった。しかし、シートがありABCの項目があると取っ掛かりになってと

でも助かった。

- ・最初の方向性が示されたことによって、その後の要素を加え、ただの動きからダンスに近いものにしやすくなった。
- ・要素が提示してあると動きが創りやすい。
- ・何も決まりがない状態で自由に動くというのはやはり難しいので、少しでも制約があるぶん動くことができた。

原田は「何らかの手がかりを提供し、その手がかりをやるうちに自然に身体が次を求めるように導く」⁷⁾と述べており、若松(1983)も「人間の身体は一つの動作が与えられると、連続して次々と動作を発展させている」¹⁹⁾と述べている。つまり、最初に3要素が提示されていることは、動きを創造する上での糸口となり、次の動きへと発展させることが容易に感じたのではないかと考えられる。そして、身体が次を求めるといった実感が、さらに、学習者の「身体」と「動き」と「イメージ」を掘り起こすきっかけとなり、それらが統合した結果、表現性を含んだ動きが創り出されることとなる。

2) 動きの整理

「動きの整理」に関する項目において23の回答が得られた (Fig. 2)。

具体的な回答は以下であった。

- ・記録できて分かりやすい。相手に伝える効果や、実際に残して訂正できる。
- ・覚えやすく、頭で考えて踊るのではなく、体で覚えられたので難しく考えずに次々に体を動かすことができた。1つの動きを忘れずに考えながら創ることができ、振りを創るときに役立つと思う。

調査対象者にとって、動きを文字で書き留めることは、動きを覚えるために効果があり、また、頭で動きを整理するためにも重要な役割を果たしていると考えられる。若松は「ある動作に関与したイメージが、脳の中でできるということは、その動作の使っている筋肉に命令を送る神経が、実際に身体を動かすのと同じように働いている」¹⁸⁾と述べており、実際に身体で実

演する際において頭の中で動きの全体像を掴むことができ、一度脳内で動きをイメージし、整理することにCPMシートは効果があると考えられる。

3) 動きの発見

「動きの発見」に関する項目は19の回答が得られた (Fig. 2)。

具体的な回答は以下であった。

- ・自分の思いもよらない動きができる。マンネリ的な動きを防ぐことができる。
- ・動きの幅が広がらないときに、個人の思い浮かばない動きの方向や速さを気づかせることに効果があると思う。
- ・シートがある方が今まで考えていないような動きがあって新鮮だった。踊っていて少し不自由さがあった。自分が意識してやる動きとは別の動きが創れる。
- ・普段は思いつかないような動きも驚くくらいいろんな動作が思い付いて楽しかった。

滝沢は「新たな身体運動に必要な知覚内容を獲得するためには、既に保持している知覚内容を、新たな知覚内容に組み替えること」¹²⁾であり、その組み換えが身体の構造を作り変えることになる」と述べている。CPMシートでは、空欄に作業的に要素を書き込んでいくため、自分では思いもしなかった動きの組み合わせや発見があり、また同様に、要素内容を微妙に変えるだけで、何通りもの動きを創ることができると考えられる。さらに、新たな身体感覚の目覚めをも促すことに繋がるといえる。

4) 動きの意識

「動きの意識」に関する項目において18の回答が得られた (Fig. 2)。

具体的な回答は以下であった。

- ・どこまで自分が自覚しながら動いているかが分かる。
- ・自分の体の意識する部分が増えた気がした。
- ・気付かないような細かい動きも意識することができる。

A・ロックハート、E・ピースらは、「動きの

可能性を追求していくとき、動きのひとつひとつの持つ情緒的な性格に注意し、エネルギーの流れ方、時間、アクセントなどを変えることによって限りない変化の可能性があるとということに注目すべきであろう⁴⁾と述べているように、踊り手の動きに対する意識の微妙な変化によって表出される動きは大きく異なる。CPMシートに記入することで、調査対象者が一つ一つの動きを明確に意識し、実演する際において注意が喚起されていることが考えられる。また、シートを用いることにより、一度脳内でイメージを確立し、整理することができる。

5) イメージや創造力の向上

「イメージや創造力の向上」に関する項目において7の回答が得られた (Fig. 2)。

具体的な回答は以下であった。

- ・創造力を引き出せると思う。
- ・頭で考えるだけじゃなくて、シートに具体的に書いたことでイメージが創りやすかった。
- ・シートがある方が自分の動きに目標というか、テーマのようなものができて良かった。動きやすかった。自分の中にあるイメージを具体化していく上で、分かりやすく説明して、自分を納得させることができると思う。

調査対象者にとって、自らの中にあるイメージを具体的に表記することで、イメージがより明確になり、実際に身体表現として実演に移す際に効果があると考えられる。また、A～C欄 (direction, action, speed) の基本的要素のみを提示することで、その他の要素を調査対象

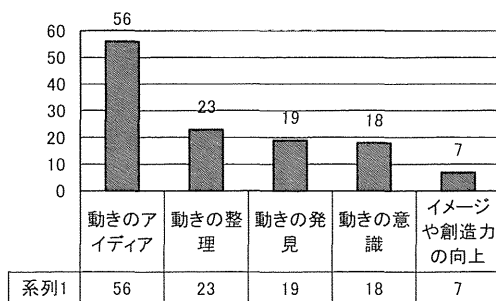


Fig. 2 CPMシートの活用に関する回答

者自らが考え出すため、動きの創造力を養うことに繋がっていると考えられる。

一方で、否定的な意見として、以下のような回答もみられた。

- ・少し動きが限定された気がした。
- ・動きが限定されていて創りにくかった。普段はダンスを要素 (言葉) で考える事はないので、指定された動きが実際どのような動きなのか想像しづかった。
- ・いったん決めたら詳しいことはシートで書くのは無理。表現は言葉で表せないのも、何回もやって自分でつかむしかない。
- ・シートがあるとシートにどうしても気を取られてダンスにあまり集中できなかった。
- ・思い通りの動きはできなくなった気がする。
- ・動きやすい反面、それ以外の動作 (自発的な要素) をつくるのが難しくなった。
- ・シートがない状態で創ったことがないのでよく分からないが、ダンスが全然覚えられないので、自分の文字しかない状態ではどう動いて良いのか困った。紙に書いてその流れに合わせて書いたとおりに動くというものはものすごく難しい。

これらの意見から、要素が提示され制約されることで、逆に動きが限定され、湧き出るように創り、動くことができないという面もCPMシートは併せ持っていることが伺えた。

以上から、初心者レベルの調査対象者が、創造学習において動きの創造の助けになる様々なヒントを求める一方で、やはり、ダンスの動きの本質が持つ自然且つ湧き出るような表現性の魅力に対しても敏感であるということを読み取ることができ、否定的意見も大変興味深い結果となった。

3. CPMシートの活用による動きの気づきに関する回答の分析

CPMシートを用いての動きの創造を通し、動きに対する気づきに関して、「複雑さ、多様性」、「連続性 (つなぎ)」、「個々の表現特性」、「言

語化の意義]、「その他」についての計5つを質問紙調査項目の内容から抽出し、それらを中心にして結果の考察を行った。

1) 複雑さ、多様性

「複雑さ、多様性」に関する回答が27%と最も多く挙げられた (Table 4)。

具体的な回答は以下であった。

- ・「ひねる」など1つの動きでも「何を」「どこへ」「どのように」動くのか、たくさんの選択肢があることに気づいた。
- ・体の色々なパーツが別々の動きをするのでダンスはある意味複雑だと思った。
- ・一言で表現される動き（飛ぶ、など）も一言で表現できる動きにはならない。
- ・動きは無限度。「右」や「左」といった言葉の概念で「動き」を完全に規定することはできない。

V・プレストンが「1つの単純な動きが、ひじょうに多くの「まげる」、「のぼす」、「ねじる」を含んでいるので、このような言葉で希望する動きを表すことは不可能である」¹⁾と述べているように、ダンスにおける動きは、微妙な色合いを持ち、複雑であることが伺える。また、「抵抗・方向・距離・持続時間 (duration)・速度・力が含まれないかぎり、いかなる運動もおこりえない」¹⁰⁾ことから、動きを構成している要素は数多く存在し、それらが幾重にも重なり合うことによって複雑な動きが生まれる。調査対象者はダンスにおける動きは複雑さを含んでおり、単純な動きとは大きな差異があることを自らが認識したという成果であると考えられる。

2) 連続性 (つなぎ)

「連続性 (つなぎ)」に関する回答が16%であった (Table 4)。

具体的な回答は以下であった。

- ・動きと動きのつなぎはとても大切だと思った。一つ一つの動きが良くてもつなぎが良くないと台無しになると思った。
- ・一つ一つの動きの切れ目をいかに上手くつなぐか、それができればきれいに見えるのでは

ないか。

- ・「流れ」が大切だと言うこと。動きと動きをつなげる流れをつくることで動きがダンスになるのだと思った。

V・プレストンは「流れとは、進むことと止まることとの間の変化・動きを注ぎ出そうと構えていることと、動きを差し控えようと構えていることとの間の変化を意味する」¹⁷⁾と説明し、若水は「ダンスとは運動の連続である」²¹⁾と述べており、運動の終わりは次の運動の準備であるべきであるとし、動きと動きの間には、「流れ」が存在しているべきである。ダンスにおける動きの連続性は、洗練された動きには欠かせない要素であることを調査対象者が強く認識した結果となった。

3) 個々の表現特性

「個々の表現特性」に関する回答が11%得られた (Table 4)。

具体的な回答は以下であった。

- ・ある一定方向にのみ動きがちな事、後ろ・斜めの動作が創りにくいという自分の癖 (弱点) に気が付いた。
- ・自分の動きは淡泊で飾り気がないと思った。また、それが好きだということに気づいた。
- ・意外に勝手に動いている部位がある。
- ・自分の中で知っている動きしか使えなかったこと。新しい動きをしようと思うと、頭で理解し、順に身体を動かさないとできなかった。
- ・自分が「動く」ときに何を基準・大事な要素として考えているかに気付いた。

調査対象者が自らの表現特性に対して何らかの気づきを得ていることが伺える。また、自己表現の実現のためには、自己の表現への気づきが必要であり、舞踊教育において、この自己に対する気づきは、学習目標として非常に重要な意味を持っていると考えられる。

4) 言語化の意義

「言語化の意義」に関する回答が10%であった (Table 4)。

具体的な回答は以下であった。

- ・自分で考えた動きを言葉にすることは難しいと思った。
- ・自分の動きを言葉にすることで、より動きが確定されたと思う。
- ・簡単な言葉でダンスは表せない。

滝沢は「身体運動を実施しているとき、身体には様々な感じが生起している」¹³⁾と述べており、ダンスにおける動きは我々の感覚内で、いわゆる「感じ」として存在しており、それを言葉で表すことは非常に困難であると考えられる。これは、筆者の経験からみても明らかである。しかし、V・プレストンがダンス指導において「動作用語-次には、舞踊のレッスンの中で動きの中に再現することのできるような-を含む、短い散文や詩を書かせるとよい」¹⁵⁾と述べているように、その一見曖昧な「感じ」を言葉にすることは、重要な効果をもたらすと述べている。これにより、動きはより明確となり、動きの「感じ」を他者と共有することさえも可能になる。また、若松によると「言語を深め・富ましてダンスにむかうのではなく、言語を身体運動のエネルギーで富ませること」²⁰⁾とあるように、身体運動を通して、その動きの「感じ」が明確になり、言葉に変換することが可能になる場合もある。つまり、ダンス熟練者ほど、動きに対する表現言語が豊かであると考えられるさらに、このCPMシートは動きの創造に必要な要素を言語として表記する特性を持っているため、このシートを用いることで、動きを言葉で捉えるという思考の促進が達成されており、動きを言語化する難しさと重要性に対し、調査対象者が様々な考えを持つ機会になったことが伺える。

5) その他

「その他」に関する回答が36%得られた(Table 4)。

この、「その他」に関する項目は、調査対象者個々で表現が様々であったため、総合してまとめることとした。

具体的な回答は以下であった。

- ・音がなくても自分の中でリズムを考えて動くことがダンスにとって大切だと思った。
- ・素早く動く→びたっと止まる、ゆっくりひねる等動きに強弱をつけるとダンスっぽくなる。
- ・自分のイメージが「動き」を作っていく上で重要だと思った。
- ・殻をぶち破る気持ちが重要だと思った。
- ・細かいところが大切。」

Table 4 動きの気づきに関する回答

総記述数 41

	回答内容	回答数	割合
1	複雑さ、多様性	24	27%
2	連続性(つなぎ)	14	16%
3	個々の表現特性	10	11%
4	言語化の意義	9	10%
5	その他	32	36%

以上のように、なんとなく動きを組み合わせていた調査対象者たちが、CPMシートに動きを書き入れるという「手間」を通して、より繊細な感覚を得るきっかけとなったことが示唆される結果となった。

4. CPMシートの活用によるダンスに対する認識に関する回答の分析

CPMシートを用いた動きの創造を通して、自らが創造した動きがダンスだと思うか、という問いに対する5段階評価及び記述内容から抽出された結果を中心に、調査対象者のダンスに対する認識の在り方、また、ダンスの認識において重要視している事柄について考察を行った。

その結果、「大変思う」16回答、「思う」40回答、「どちらでもない」29回答、「思わない」16回答、「全く思わない」5回答が得られた(Fig. 3)。

「大変思う」と「思う」における評価を統合すると56回答で約半数であった。「思わない」と「全く思わない」における評価を統合して21回答とすると、多くの調査対象者は自分で

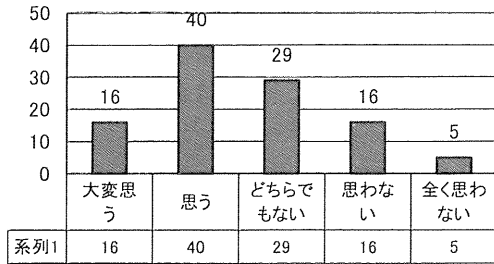


Fig. 3 「ダンスだと思うか」という問いに対する回答

創造した動きをダンスであると認識していることが伺える。しかし、「どちらでもない」は29回答であり、あいまいな回答も無視することができない数であった。このことから、調査対象者が自分で創造した動きをダンスであると認識するには確信がない状況であると考えられる。そこで、「どちらでもない」、「思わない」、「全く思わない」と回答したものが、その理由として具体的に記入した45回答の内容を質問紙調査から抽出し、「動きの意味」、「音楽・リズムとの調和」、「自己表現の実現」、「動きの連続性」、「その他」に関しての5つに分類し、さらに深く分析した。

1) 動きの意味

「動きの意味」に関する回答が15と最も多く挙げられた (Fig. 4)。

具体的な回答は以下であった。

- ・意味がない動きだから。
- ・ダンスには主題が必要だと思うが、この動きには伝えるべきことがないから。
- ・表すものやイメージは全くなかったから。

調査対象者がダンスにおいて、題材やテーマ等、動きの意味内容が非常に重要な要素であると認識していることが伺える。CPMシートを用いた実験において、ダンスにおいて最も重要であるとされる踊り手の内面やイメージ等の表現に関する要素の存在に触れることなく、単純に動きの創造を行ったことで、結果的に、調査対象者が自発的にこれらの重要性に逆説的に気づくという成果が得られた。

2) 音楽・リズムとの調和

「音楽・リズムとの調和」に関する回答は8であった (Fig. 4)。

具体的な回答は以下であった。

- ・リズムに合わせるができなかった。動きを創ることまではこのシートでできたが、ダンスらしいリズムに合わせた動きまではつくれなかった。
- ・曲とかりズムがないのできちんとまとまらないから。
- ・あまりリズムを意識した動きではなかったから。」等が挙げられた。

実験調査では、音楽の要素に触れることなく動きの創造をおこなったため、このような回答が出るのは予想の範疇である。柳沼は「音楽や舞踊はその動きの基礎としてリズムをもっており、そのリズムの時間的経過により、動作や動きのある抽象的様相を表現することができます」²³⁾と述べていることから、音楽やリズムはダンスにおいて、非常に強制力の強い要素であるといえる。山下は「音によって動きがダイナミックになったり、それらしい雰囲気をもたせだす動きを導いてくれる手助けとなる」²²⁾と音の重要性を述べており、音楽から表現の幅が広がるとも考えられる。

3) 自己表現の実現

「自己表現の実現」に関する回答は5であった (Fig. 4)。

具体的な回答は以下であった。

- ・自分が考えた動きに全く自信が持てず、どうしてもあまり動けなかったです。
- ・あまりはっきりした動きではなかったと思うから。
- ・自分の表現がうまくできたと感じられなかったから。
- ・ダンス未経験者がちょっと身体を動かしたただけだと思うから。

調査対象者が自らの動きに自信が持てず、自分の能力では動きを表現しきれなかったと感じていることが伺える。また、その要因として、

調査対象者は初心者レベルであり、自らの身体で表現することに不慣れな者が多かったことが考えられる。

4) 動きの連続性

「動きの連続性」に関する回答は3であった (Fig. 4)。

具体的な回答は以下であった。

- ・メリハリをつけるため、つなぐところはスムーズにつないだ方がよい。上手い人は言わずとも動きのつなぎ目を作っていた気がする。
- ・流れがぶつ切りだったから。

調査対象者の多くはダンスにおいて動きの連続性が非常に重要であると認識していることが伺える。V・プレ斯顿が「身体的技能は、1つの身体活動から他の身体活動への移行から成り立つ一連のよい動き (sequence) を練習することによって向上する」¹⁴⁾と述べていることから、連続性を持った滑らかな動きは身体的技術を伴うものでもあることがいえる。つまり、ダンスの動きにおける連続性は、踊り手の高い身体的技能によって達成されると考えられ、今回のようにダンス経験が浅い調査対象者がこの動きの連続性を達成することは非常に困難であると感じたことが伺える。

5) その他

「その他」の理由に関する回答は14であった (Fig. 4)。

具体的な回答は以下であった。

- ・経験者は「そんなダンスではない」と言うかもしれないから。
- ・動きが少なかったから。
- ・ダンスの定義がまだよく分かっていないので。
- ・ダンスと演劇の真ん中くらい。個人個人で違うと思う。

今回の調査対象者は初心者レベルであり、「ダンスとはどのようなものか」を問う価値観に対し、今回のような意見が出たことは、「決められた動きを、できるようなるまで反

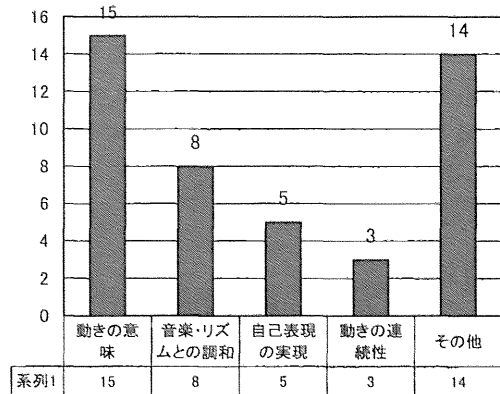


Fig. 4 「ダンスと思えない」と認識した理由

復練習する」のがダンスだと思われている風潮に、CPMシートを通して自ら疑問を感じ、考え直す機会となったといえる。大変興味深い結果であった。

V まとめ

本研究は、創造学習において核となる動きの創造に着目し、CPMシートがダンスの動きの創造に与える影響、動きの可能性への喚起の効果などを検証した。この結果、調査対象者であった初心者レベルの一般大学生は、どの部分をどのようなイメージで動かすかを、動きの大切な構成要素に挙げていることが明らかとなった。そして、ダンスの動きに対して「複雑さ・多様性」、「連続性 (つなぎ)」、「個々の表現特性」、「言語化の意義」に気づきがあるという結果を得た。CPMシートの活用に対しても発想の広がりや、動きの整理、想像力の向上に役立つというような様々な意見が出されたが、学習者たちがいつの間にか動きを創造することに抵抗感なく取り込むことができるようにするためには、CPMシートに改良を加え、さらなる調査が必要であるという課題も残した。

初心者レベルの大学生がダンスの動きの構造に興味を持ち、その多様性、深層性に気付くとともに、ダンスの本質が持つ表現性の魅力に自

発的に芽生え、自分の考えを動きに乗せ、感じることを伝達しあうことを楽しむことができるような創造学習の一つの方法として、このCPMシートの利用が効果をもたらすよう、さらに研究を継続したい。

引用文献

- 1) A・ロックハート, E・ピース著 松本千代栄, 石黒節子訳 (1974): ダンスの創作過程. 株式会社大修館書店, 東京. (p. 5)
- 2) 同上 (p. 100)
- 3) 同上 (p. 113)
- 4) 同上 (p. 122)
- 5) 同上 (p. 123)
- 6) 同上 (p. 159)
- 7) 原田奈名子 (2007): 女子体育 うごく・かかわる・からだ 私の指導のコツと秘密 -おさえるべき原則- 第49巻 第4号. 日本印刷株式会社, 東京. (p. 57)
- 8) 片岡康子 舞踊教育研究会 (1991, 1994): 舞踊学講義. 株式会社大修館書店, 東京. (p. 130)
- 9) 川口千代 (1981): 中学保健体育の研究 (体育分野) 教材 資料編. 学習研究社, 東京. (pp. 88-91)
- 10) 邦正美 (1973): 舞踊の美学. 内外印刷株式会社, 東京. (p. 85)
- 11) 村田芳子 (1998): 最新 楽しい表現運動・ダンス. 凸版印刷株式会社, 東京. (p. 18)
- 12) 滝沢文雄 (1995): 身体の論理. 株式会社不昧堂出版, 東京. (p. 108)
- 13) 同上 (p. 125)
- 14) V・プレストン著 松本千代栄訳 (1976): モダンダンスのシステム. 株式会社大修館書店, 東京. (p. 68)
- 15) 同上 (p. 70)
- 16) 同上 (p. 83)
- 17) 同上 (p. 189)
- 18) 若松美黄編 (1983): 現代スポーツコーチ実践講座 26 ダンス. 株式会社ぎょうせい, 東京. (p. 118)
- 19) 同上 (p. 276)
- 20) 同上 (p. 278)
- 21) 若水潤 (2006): 女子体育 からだ・こころ・ゆさぶる 動きを捉える目 第48巻第10号. 日本印刷株式会社, 東京. (p. 29)
- 22) 山下昌江 (2006): 女子体育 からだ・こころ・ゆさぶる 音とからだ 第48巻第1号. 日本印刷株式会社, 東京. (p. 36)
- 23) 柳沼てるこ (2006): 女子体育 からだ・こころ・ゆさぶる 音とからだ 第48巻第1号. 日本印刷株式会社, 東京. (p. 11)